

平成 29 年（2017）年度 研究報告書
豊中市民の生活の質に関する調査研究
熊本伸介 研究員

要旨

豊中市の生活課題について、また、主観的厚生分析による豊中市民の生活の質について調査研究を行った。主観的厚生とは満足しているとか、喜んでいる、楽しんでいる状態を指す「厚生（well-being）」、そして、客観的に把握しているものではなく、あくまでも個人が感じている、主観的評価を指す「主観的（subjective）」という2つの概念で構成されている。主観的厚生分析は三点の重要な意味を持つ。第一に、通常の経済分析では十分解明できなかった社会の病的側面、不公平な点を浮き彫りにすることができる点である。第二に、私たちが主観的厚生の向上をめざす場合、効率性・公平性の観点から見て最も適切な政策に関する示唆を分析結果から得ることができる点である。第三に、社会経済の全体的な状況が主観的厚生に及ぼす影響が、個人間で異なる様子やその原因が明らかになる点である。したがって、主観的厚生に関する研究は、社会構成の中身や経済政策のあり方をめぐる議論に重要な示唆を与えることができる。

主観的厚生を把握するためには、個々人の主観的厚生を尋ねなければならない。そこで、豊中市民を対象に生活の質についてのアンケート調査を行った。そして、全国の他の中核市と比較したとき、どの程度生活の質を満たしているかについて、主観的厚生分析を行った、その結果、性別や年齢、所得や学歴など、いろいろな要因を取り除いた後でも、子ども時代の貧困がその後の人生の主観的厚生（生活の満足感、健康感）に影響を与えていることなどを明らかにした。

目次

- 第1章 はじめに
- 第2章 豊中市の生活の質について
- 第3章 豊中市民の生活の質に関するアンケート
- 第4章 アンケート調査の定量的分析
- 第5章 おわりに